

新東広島市立美術館の開館記念式典等の開催について

1 概要

八本松町からの移転整備を進めていた東広島市立美術館を令和2年11月3日に開館し、開館記念式典を実施するとともに、新美術館開館記念として、特別コレクション展「日常とつながる美術の扉ーわたしたちと美術の出会い」を開催する。

2 開館記念式典

- (1) 日時 令和2年11月3日(火・祝) 9時30分～10時00分
- (2) 会場 東広島市立美術館北エントランス及び西条中央公園(西条栄町9番1号)
- (3) 内容 市長挨拶、来賓祝辞、テープカット
- (4) 来賓 衆議院議員、広島県知事、広島県教育委員会教育長、県議会議員、市議会議員、地元関係者
- (5) その他
 - ・10時のテープカットと同時に一般公開開始(当日無料開館)
 - ・祝典プラスステージ(東広島芸術文化ホールくらら主催)
 - ・マルシェ(西条中央公園)

3 新美術館開館記念特別コレクション展について

- (1) 展覧会名 新美術館開館記念特別コレクション展
「日常とつながる美術の扉ーわたしたちと美術の出会い」
- (2) 会 期 令和2年11月3日(火・祝)～12月20日(日)
- (3) 開館時間 9時～17時(入館は閉館30分前まで)
ただし、11月3日(火・祝)は10時開館、11月27日(金)、12月18日(金)は19時まで夜間開館
- (4) 展覧会概要
40年以上の歴史をもつ東広島市立美術館の歩みを振り返り、初公開作品を含む当館コレクションを中心に、地域の美術や文化を交え日常とつながる美術の多様性やその豊かさを紹介する。
- (5) 展示内容 出品点数：版画109点、絵画13点、写真13点、立体13点(総数148点)
- (6) 主な展示作品
ジョアン・ミロ《最後の版画》シリーズ、橋口五葉《化粧の女》、草間彌生《南瓜》、今井政之《象嵌彩窯変洋蘭花壺》、大久保博《農家の一隅》、広島県重要文化財《木造薬師如来坐像》(安芸國分寺蔵)ほか



川西英《古道真匠》1941 当館蔵

新美術館開館記念特別コレクション展

日常とながる



ジョアン・ミロ《LA MARCHANDE DE COULEURS》1981 当館蔵
© Successió Miró / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2020 C3314



今井政之
《象嵌彩露変洋蘭花壺》
1981 当館蔵

2020.
11.03 |火・祝| — 12.20 |日|
NEW OPEN

11月3日は無料開館

開館時間：9時 - 17時（入館は閉館30分前まで）
*11月3日は10時開館
11月27日、12月18日は19時まで開館
休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）
会場：東広島市立美術館
観覧料：一般600円、大学生300円*、高校生以下無料*
（*学生証をご提示ください/20名以上団体2割引）

【主催】東広島市立美術館、中国新聞社
【後援】NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、
テレビ新広島、広島エフエム放送、(株)広島リビング新聞社、
プレスネット、KAMONケーブルテレビ、FM東広島 89.7MHz

わたしたちと美術の出会い

美術の扉



藤岡亜弥『川はゆく』より 2017 個人蔵 © Aya Fujioka

日常とつながる美術の扉

わたしたちと
美術の出会い

新美術館開館記念特別コレクション展 11.3(火・祝) - 12.20(日)



この日は
無料開館!
2020.11.3 NEW OPEN

東広島市立美術館は2020年11月3日に「暮らしとともにあるART、生きる喜びに会う美術館」をコンセプトに東広島市の市街地である西条へ移転オープンいたします。

当館は、1978年に市内黒瀬町出身の故・大久保博氏によって建物が寄贈されたことが契機となり翌年6月に開館いたしました。これまで当館では中国地方の美術の現況や郷土ゆかりの作家などを中心とした自主企画展を開催するとともに、版画・現代陶芸・郷土ゆかりの作品を主に収集を続け、現在853点の作品を所蔵しています。

新美術館開館記念となる本展では、40年以上の歴史をもつ当館の歩みを振り返るとともに、これまでの収集活動の精華であり、この度初公開となる新収蔵品を含む当館コレクションを中心として、地域の美術や文化を交えながら日常とつながる美術の多様性やその豊かさを紹介します。私たちの日常と美術のあり方を、作品を通じて様々な角度からひも解くことで、日々の暮らしにおける「生きる喜び」との出会いの場となれば幸いです。

※当館では新型コロナウイルス感染拡大防止対策を実施しています。最新情報は当館HPをご確認ください。



1



2



3



4

1 橋口五葉《化粧の女》1918 2 加納光於《暁に呼ばれてII》1991-1992 3 県重要文化財《木造薬師如来坐像》平安時代 安芸国分寺蔵 4 遠藤彰子《沈める街》1989
※所蔵表記のないものはすべて当館蔵

関連イベント ※新型コロナウイルス感染拡大の影響によりイベント内容を変更することがあります。

シンポジウム 「くらしとART—地域における美術」

地方における文化や美術は、その土地の暮らしの営みが大きく関係しています。国内外の地域における様々な「ART」について事例発表をするとともに、地方の美術館がこれから目指す未来についてディスカッションを行います。

日時：11月7日(土) 13:30-15:30

進行：松田弘(当館館長)

シンポジスト：金田晉(東亜大学特任教授・広島大学名誉教授)、三木哲夫(兵庫陶芸美術館館長)、藤岡亜弥(写真家)

定員：30名(当日先着順・無料)

会場：1Fアートスペース

*プログラム詳細は当館webサイトをご覧ください

ワークショップ 「ミロのカタチと色」

初公開となる新収蔵品ジョアン・ミロの「最後の版画」をテーマに、ミロ作品の特徴であるモチーフの形や大胆な色使いから得た自由な発想で、作品制作をする親子参加型ワークショップを行います。

日時：11月14日(土) 14:00-15:30

講師：久保田貴美子(造形作家・比治山大学短期大学部准教授)

定員：10名(事前申込制)

対象：幼児以上(小学生以下は保護者同伴)

会場：1Fアートスペース

参加費：無料

*申込方法は当館webサイトをご覧ください

対談

遠藤彰子(画家・武蔵野美術大学名誉教授)
× 難波平人(画家・広島大学名誉教授)

画家であり教育者としての経歴を持つ両者が、自身がこれまでに日々の経験から影響を受けたものやことについて触れながら、現在までの活動についてお話しいただけます。

日時：11月22日(日) 14:00-15:00

定員：30名(事前申込制・無料)

会場：1Fアートスペース

*申込方法は当館webサイトをご覧ください

アーティストトーク

伊勢崎淳(重要無形文化財保持者[備前焼・人間国宝])

釉薬を使わない焼締技法で自然の土と炎から生まれる表現に重きをおく備前焼。重要無形文化財保持者(人間国宝)の伊勢崎淳氏を講師に招き、穴窯の一つである備前焼の歴史を辿りながら、備前の土とその風土の重要性についてお話しいただけます。

日時：12月5日(土) 14:00-15:00

定員：30名(当日先着順・無料)

会場：1Fアートスペース

ワークショップ

「建築デザインとステンシルでマイバッグづくり」

学芸員が当館建築についてご案内するとともに、新美術館の特徴である幾何学的な窓のデザインを版にしたステンシルでの刷り体験を行いオリジナルのマイバッグをつくります。

日時：12月12日(土) 14:00-15:30

講師：当館学芸員

定員：10名(事前申込制)

対象：幼児以上(小学生以下は保護者同伴)

会場：1Fアートスペース

参加費：無料

*申込方法は当館webサイトをご覧ください



- 電車** JR山陽本線「西条駅」南口から約400m(徒歩約10分)
- 新幹線** JR山陽新幹線「東広島駅」から「西条駅」行バス「中央公園前」下車すぐ(バス約20分)
- 自動車** 山陽自動車道「西条インターチェンジ」から約7分
*車でご来館の際は近隣の駐車場をご利用ください。
市営西条岡町駐車場ご利用の方は
駐車場料金が2時間減免(無料)になります。

〒739-0015 東広島市西条栄町9-1
TEL 082-430-7117 FAX 082-430-7118
<https://hhmoa.jp/>

東広島市立美術館
HIGASHIHIROSHIMA CITY MUSEUM OF ART